

重要文化財 大安寺保存修理工事

大安寺について

大安寺は福井市北西の山腹、田ノ谷と称する谷筋に位置する臨済宗寺院です。福井藩四代藩主松平光通が当時の高僧大愚宗築を開山として招き、福井藩松平家の永代菩提所として万治元年（1658）より本堂及び庫裏の普請が始まりました。それと並行して歴代藩主の石塔が建立され、その後、鐘楼や開山の^{まっだいらみつみち}大愚を祀る開山堂、光通を祀る開基堂などが順次建立されていきました。



建立当初の本堂は現状とは大きく異なり、上部は茅葺、下部周囲及び玄関（板葺）はこけら葺の屋根でした。現在の瓦葺屋根になったのは明治になってからのことです。明治以降近年までは、経年による破損の修理工事や利便性の向上のための工事など、維持管理のために都度工事が行われてきました。

平成20年には福井藩大工の高い力量が示される秀でた意匠や良好な保存状態などが評価され、伽藍^{がらん}一体が国指定の重要文化財に指定されました。しかし経年による破損の進行が随所に見られ、根本的な対策をするべく平成31年から10年以上に及ぶ大規模な保存修理工事を行っています。

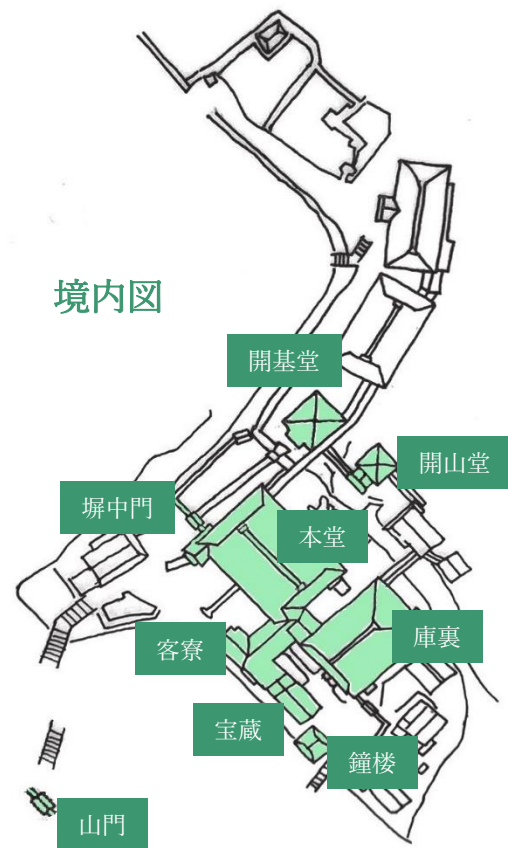
修理工事について

今回の保存修理工事は、重要文化財に指定されている本堂のほか、庫裏、廊下・客寮、開山堂、開基堂、鐘楼、山門、宝蔵、塀中門が対象となっています。

建物の規模や破損状況に応じて、建物すべてを一旦取り解いて組み立て直す解体修理、柱や梁など主要部分を残して破損部を修理する半解体修理、屋根葺替など傷んだ箇所のみを補修する修理が行われます。

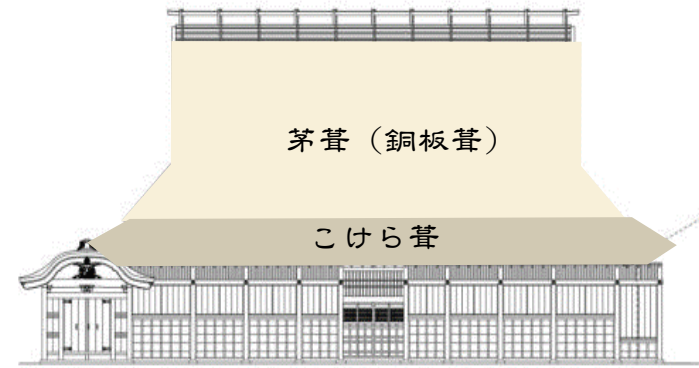
本堂工事中の現在は、廊下・客寮と塀中門は解体されており、本堂と庫裏の完成後に組立工事が始まります。

また、鐘楼と山門は令和4年4月に工事が完了しています。



本堂の工事について

完成後の本堂（正面）



本堂は半解体修理が行われています。柱や梁などの骨組部分を残して解体し、基礎工事や柱の補修のために建物全体を持ち上げる^{あげや}揚屋工事が行われました。現在は組立工事を進めています。

今回の保存修理工事に伴う調査の結果、今回の工事では、本堂の屋根をその当時の姿に復原することになりました。（※このうち上部の茅葺部分については、積雪等の対策を考慮して茅葺の型を模した銅板葺となります）

解体工事

まずは廊下・客寮や塀中門など本堂周辺の建物を解体したうえで、本堂を覆う素屋根を建設しました。

その後、屋根から解体工事が始まりました。一万枚以上の瓦を取り外し、木部を解体しました。

壁や床なども全ての部材に番号をふり、位置や状態など詳細な記録をとったうえで順に解体していきました。解体した部材は補修・補強して再び使用されます。

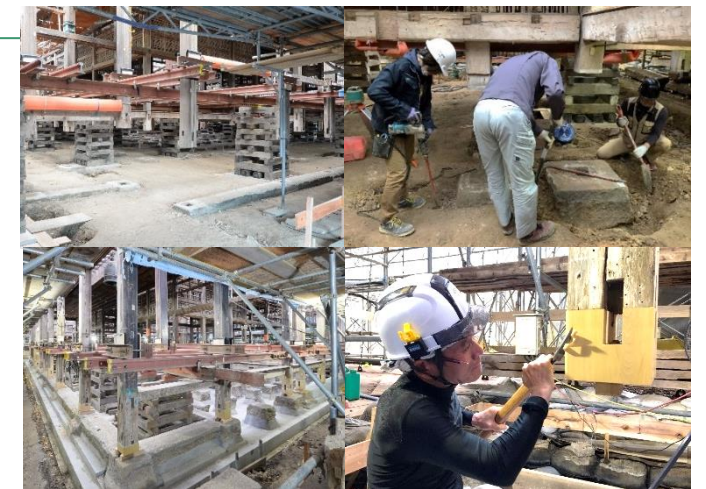


揚屋工事

解体工事後、骨組部分だけになった本堂を持ち上げ、基礎工事や柱の補修工事を行いました（揚屋工事）。

地盤沈下を防ぐために、基礎の石を掘り起こし、地面を平らにしてコンクリートで固めました。

あらわになった柱の根元は、シロアリや腐れなどで傷みがひどいものはその箇所を切り落とし、新たな木材と接合しました（根継）。



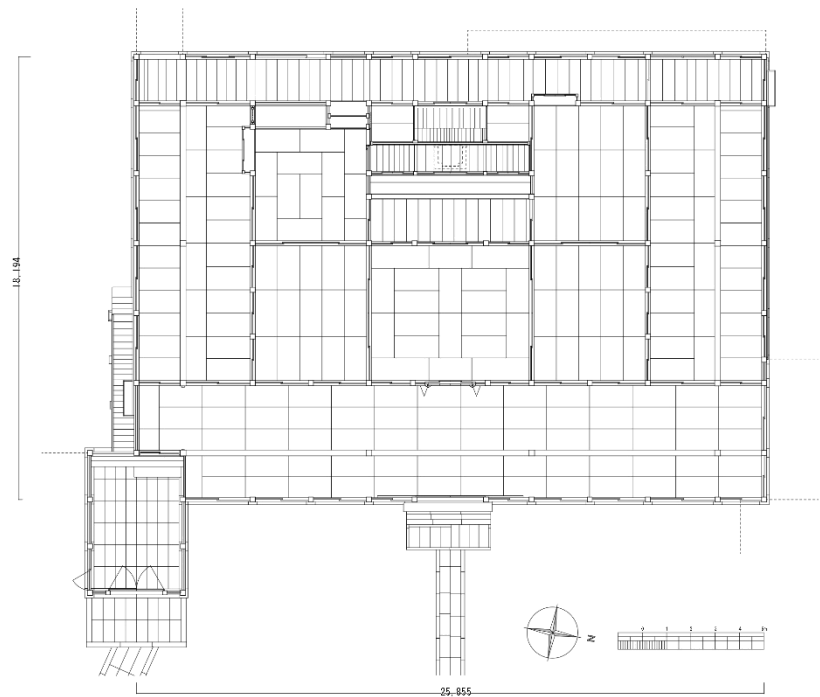
組立工事

揚屋工事が終わってからは、2年以上かけて組立工事が行われているところです。

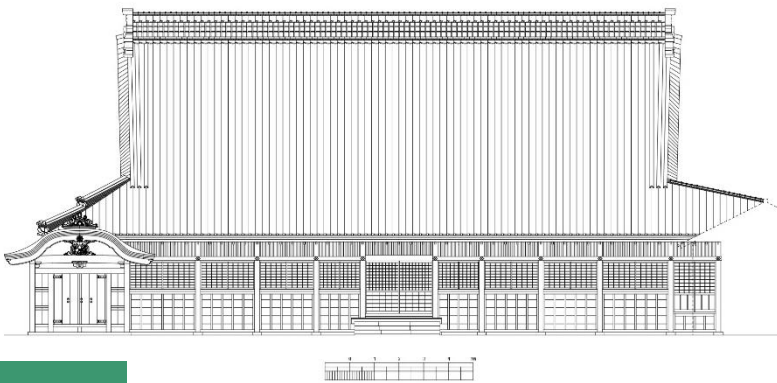
解体後に保存していた古材の傷みを繕う作業では、大工が木材のひとつひとつを確認し、傷んだ箇所を切り落としはぎ取ったりして、再び使用できるように新たな木材を継いでいきます。



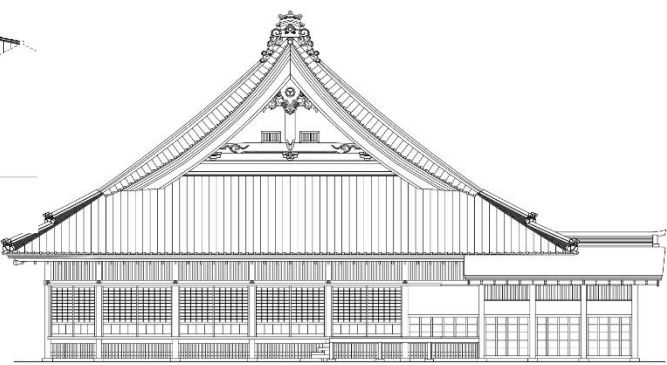
修理前の本堂



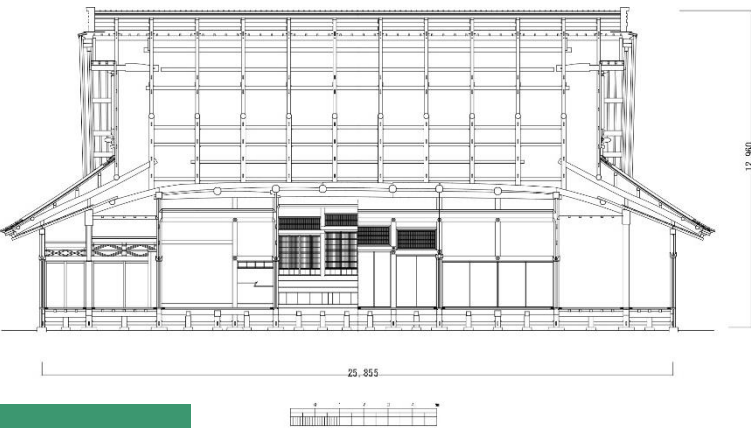
平面図



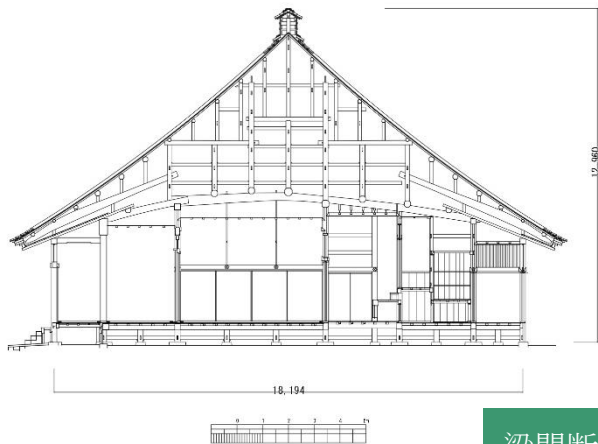
正面図



側面図

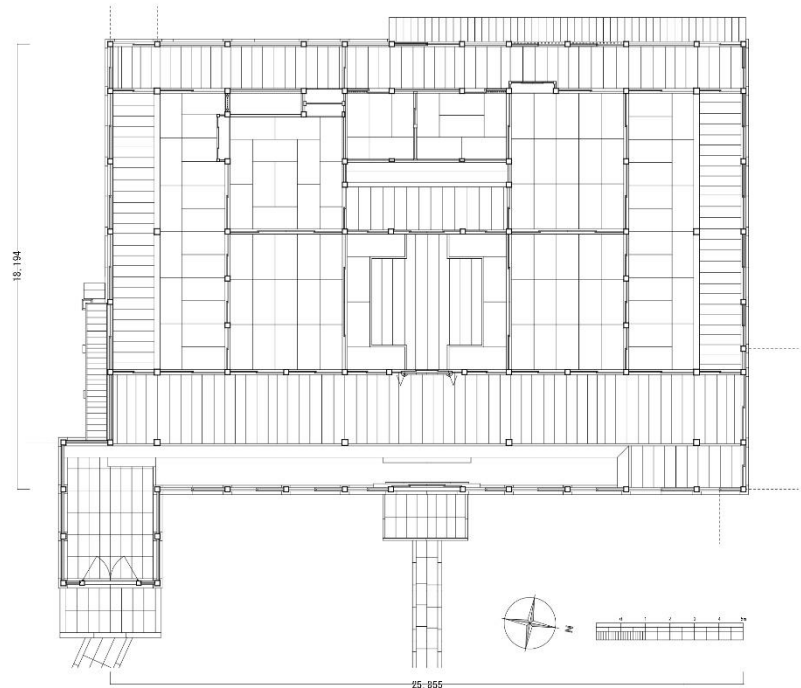


桁行断面図

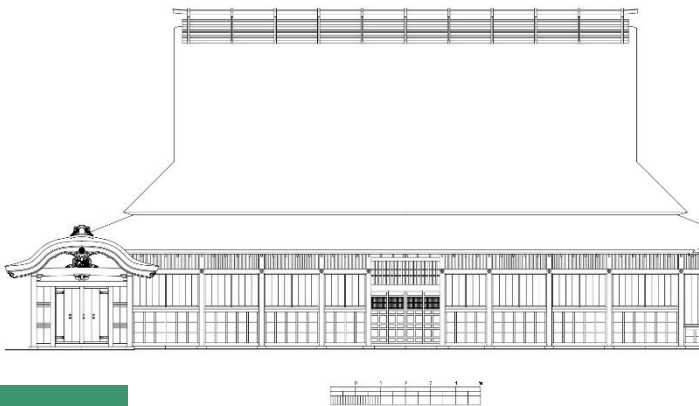


梁間断面図

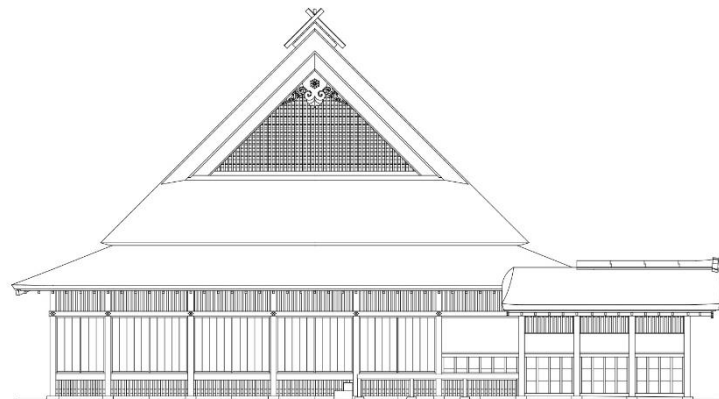
竣工予定の本堂



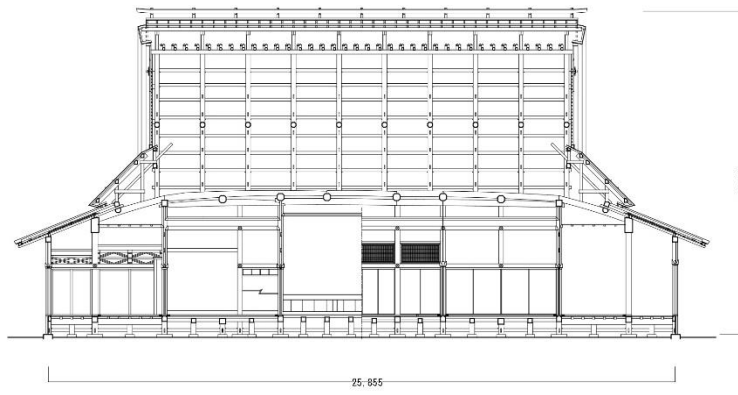
平面図



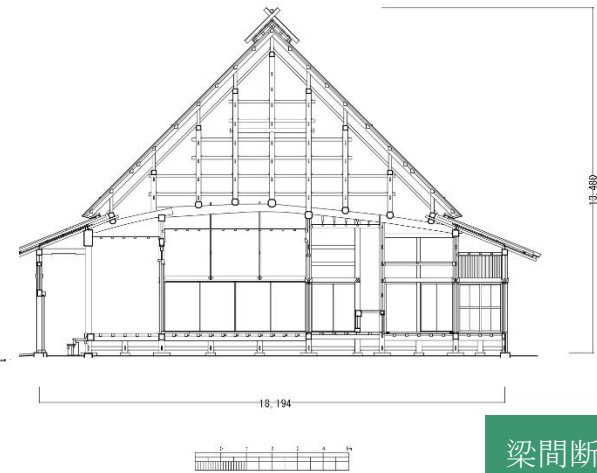
正面図



側面図



桁行断面図



梁間断面図